



「りかちゃん」と「子ども」（と「先生」）

5月9日に、9年間子どもたちと一緒に過ごしていたうさぎの「りかちゃん」が天国に旅立ちました。改めまして、皆様からのお心遣いや温かいお言葉に感謝いたします。

また、高橋先生がいつも長期のお休みにはご自宅で面倒を見て下さっており、高橋先生のご家族皆さんでかわいがってくれておりました。子どもたちのためにありがとうございました。感謝申し上げます。

9歳3か月でしたので、人間で言うと80歳を超えていたぐらいでした。うさぎの平均年齢が7~8歳と勘案するに大往生となるのかもしれませんが。

しかし、動物病院で高橋先生の腕の中で夕方6時前に天国に旅立ったと電話が入った時には、職員室で皆無言となりました。そして、夜半に安らかな顔のりかちゃんが戻ると、先生方のお顔には大粒の涙でした。

翌朝、子どもたちに知らせる時にどんなふうに伝えようか？具合が悪いのをわかっていたから、お別れをさせてあげたかった、ごめんね。子どもたちの悲しい顔を想像すると、胸がしめつけられました。

先生方から、〇〇ちゃんが泣いていました。お手紙を書いてくれた子がいたんです。どこでみたのでしょうか？祭壇に向かって手を合わせ首をうなだれ、目を閉じ、さようならをしている子がたくさんいました。驚きました。

ご家庭でのご教育の賜物ですね。

卒園生もたくさん来てくださいました。卒園した保護者様も来てくださいました。心を込めたお手紙やお花、そしてニンジンや果物をありがとうございました。心から感謝いたします。

「旅立ったペットがどこで何をしているかと思うか、子どもに想像させ、声を出して話をさせる」ことは、いつも近くにいたペット（友人）を失った時に有効だと言えるそうです。（「ペットロスの心理学」モイラ アンダーソン著）

先生方と話し合い、「りかちゃんはお空に行ったのよ。満月の時には、まん丸のお月様で、お餅をついたりしているかもしれないから、満月の時にはお空をみてみましょう。」と言葉をかけました。

りかちゃんのいる場所風景から一緒にいる動物や人、何をして遊んでいるかまで、多岐にわたって想像力を刺激するような会話をお子様とすると良いかもしれませんね。

6月26日までは祭壇を設置し「まだ、時々遊びに来ているかもしれませんよ。」と、子どもたちに伝えてあります。

りかちゃんの旅立ちを通し、皆が共に育つことができますように。

りかちゃん「ありがとう」皆を見守って下さいね。

